



# 「個性」と 「つながり」のなかで 生かし 生かされる

2010 年は国連の定めた国際生物多様性年であり

10 月には生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）が名古屋で開催されます

また 2010 年 7 月、「東亜建設工業 生物多様性行動指針」が策定されました

そこで生物多様性をどうとらえ、どのように行動していくか

土木・建築・技術開発・事務

各セクションの中堅社員に語りあってもらいました





**田中** 地球上の生物種の絶滅スピードが年間4万種に達しているそうで、世界全体で協力して生物多様性を保全していきましょうという流れになってきています。

**櫻井** そのなかで建設業としてのわれわれはどうすべきかですね。

**田中** 私たちの業界は社会資本の整備など、ものの形を変えていくわけで、さまざまな環境と折りあいをつけていかなければなりません。そこが私たちの知恵の出どころです。

**宮沢** 工事による生物多様性への影響を予測するにも限界があると思います。たとえば、現在行なっている水質汚濁対策からうまく発展させられるのでしょうか。

**田中** 今はビオトープをもっているビルもありますし、屋上緑化もあります。建築から見た生物多様性という切り口でもいろいろあるでしょう。

**松本** 敷地にモリアオガエル（水面にせり出した木の枝に産卵する珍しいカエル）がいるので考慮してくださいという話がありました。

**櫻井** 提案する時は外部の有識者に相談するんですか。

**松本** 現地の、実際に見ていらっしゃる方がどうお考えなのかとか、いろんな方の意見は必要です。

**宮沢** 当社ができる技術的なことだけでなく、地元の人といかにコミュニケーションがとれるかも大切ですね。



**田中** 水質汚濁を抑えることは、藻類の生産を守ることになるので生物多様性の保全につながっています。私たちにはできることとできないことがあるとは思いますが、ただ、この水域にとって水質汚濁はどういう影響をもたらすのかを「生物多様性」という切り口でつきつめた時、これまでになかった発想で対策ができるかもしれません。まずはそこからステップアップしていけばいいと思います。

**宮沢** その意識をもっているのといないのとでは、現場で仕事をする時でも、違うかもしれませんね。

**櫻井** どうわかりやすく伝えるかですね。2010年3月に建造した深層混合処理船（※）はCO<sub>2</sub>排出量を削減できる構造になっていますが、そういう具体的なところで生物多様性が説明できれば、わかりやすいのではないですか。

（※深層混合処理船「黄鶴」。24ページ参照）

**田中** 地球温暖化は生物多様性に直結していますから、CO<sub>2</sub>削減は生物多様性につながります。温暖化すれば、今までとは違う生存競争を強いられて減っていく生物も当然あるので、温暖化防止も生物多様性保全のひとつです。

**松本** 建築でも、最近はCO<sub>2</sub>を出さない設計施工が普通になってきました。提案書を出す時に、環境に対する配慮項目が評価の点数に直結してきます。今後は、生物に対する配慮も十分考えられます。

## 人間だって「生物」なんだ

**田中** 環境省のホームページでは、「生きものも個性とつながりが、生物多様性」と説明しています。その意味では我々も生きものですから、生物多様性の範疇に入っているわけです。「つながり」という点では、私たち人間どおしのつながりも考え直すことが必要かなと思います。

**松本** 協力しあおうということですか。

**田中** この座談会の場合も、非常に多様なメンバーが集まっています。これも個性のつながりで、「生物多様性」です。

**宮沢** 人間の多様性という意味では、PFIはけっこう異業種間交流がありますね。

**松本** 思いもよらない人たちと会うことがあります。専門家の先生を紹介していただいて、話を聞きにうかがう機会もけっこう増えました。建物のことだけでなく、環境であったり、地学的な話であったり、動物のことだったり、アンテナを増やさざるを得ない状況です。

**宮沢** PFIは建築するだけではなく、その先を15年、25年というスパンで見えていくから、より専門性が必要です。生物多様性の面でも、長い目で見られますね。

**松本** 建てた後、15年間、25年間と、ずっと関わっていくと思うと、設計会社にせよ、施工会社にせよ、真剣度が違います。つくるものをずっと良いものでいさせようという意味ですね。それは環境に対してもそうですし、

社会的にもいいことだと思います。

**田中** 生物多様性も、中長期的な目で考えていこうという話です。生物多様性は「生物」とついています。「先を見越して将来の豊かさのために今こうやる」とか、「現実には見えにくいところも考えなさい」ということも言っているように思います。生物多様性の保全には持続性が大切なので、これで終わりということはありません。

いろいろなところに配慮しながらいけば、大きな方向性は狂わないと思います。意識するかしないか、その差だけで、結果は変わってくると思います。コンクリートにしても、長持ちさせようとしてやっていますものね。

**宮沢** 壊してまたつくるのでは、無駄なことをすることになります。

**田中** 新しくつくるとなると、材料もエネルギーも必要になってきますし。

**宮沢** リニューアルや、補修・補強をして既存構造物を長く使い続けることで、環境保全にもなっていると思います。

**田中** 材料が減ることは、省資源になるのでこれも生物多様性につながります。あまり難しく考えず、身近なところでやっていることが、実は生物多様性の保全につながっているんです。

生物多様性の保全は特定の部署だけの活動ではなく、ふだんオフィスで使うものを生物に配慮したものに、それが生物多様性の保全につながっていきます。いろいろな部署でいろいろなやり方、選択肢があるは

ずですから、自分なりにうまく展開できればいいのではないのでしょうか。

**松本** 何かをする時に、これも生物多様性につながると思い続けることが大切なんですね。

**宮沢** 今回エコシーコン(※)をプレス発表しました。海のなかで打つ水中コンクリートですが、従来よりセメント量を減らしたことで、セメントをつくる時のエネルギーが減る、だけど性能は今までと同じという新材料です。

(※2010年7月発表。第一工業製薬株式会社と共同開発)

**田中** いろいろなものが削減されて、環境に配慮されているわけです。



「棚田式ビオトープ」の一例（神奈川県津久井湖畔） 湖水をポンプで揚水し、棚田の植物帯を循環させて水質浄化したのちに湖に戻すもので、周辺環境との調和が図られ、動植物とふれあう環境学習の場としても最適

## つながりを意識することが大切

**田中** 最後に今日の座談会に出席した感想を聞かせてください。

**櫻井** 真新しいことではなくて、今まで行なってきたことを整理して、あとは他の人と情報や意識を共有して、つながりをもってやっていくことが大事だと改めて認識しました。

**松本** 生物多様性という環境系のことだからとか、生物系のことだからといって、関係ないやと思いがちです。けれど、今私はこれをやるけれど、これもひょっとしたら生物多様性に何らかの影響を与えるのかなと思いがちながら日々の生活をしたら、自分の意識がそこに残りながら動いていくことになる。それが蓄積されていけば、生物多様性へのより具体的なアプローチが見えてくるのかなと思いました。

**宮沢** 意識して行なうことが生物多様性につながるということですが、みなを意識づけるには、何かを発信していかないといけないので、その意識をもつことが自分のためにもなるのではないかと思います。

**田中** 難しく考えず、いろいろなところにつながっている、そういう意識でいいと思います。まずはそこから初めていきましょう。

